

# Oho~!! Ramailo Jiwan in Nepal



みなさま、なますて。いかがお過ごしですか？ 留学の出費が余りにもおおきく、円高に少しでもならないかと、授業料を納めるタイミングを日々はかり、日々為替とにらめっこをしている渋谷です。

今日は**ネパール人の生活に欠かせないもの**についてお話させていただきたいと思います。

欠かせないもの。。。何だと思われませんか？

それは。。。

ずばり**おしゃべり と ご飯**。



ネパール人はおしゃべり大好き。

街でも村でもあちこちでおしゃべりが聞こえてきます。知らない人同士でも、同じバスにのっっちゃえば、同じお店にはいっちゃえば、もうおしゃべり相手になったということ。日本のように、電車の中、バスの中、道が静か、なんてことはありません。いたるところで、車のクラクションにまぎれて、人々の大きな話声が聞こえてきます。

これ、ものすごく楽しいです。バスの中で 70 代の老人が「初恋～。初恋～。ああ、初恋よ～。」と大熱唱していれば、隣の席の女性「なんて老人なの！」と怒ったり。「自分の旦那

の妹の旦那の母親の妹が入院して、そのお見舞いにいった帰りなんだ」と帰り道に近所の人にいたり。聞いているだけでも、つっこみどころが満載です。

外国人であるわたしには、初対面では「元気？どこから来たの？、家族は何人いるの？、父親は何の仕事をしているの？、兄弟は何人？、家はどこだ、家賃はいくらだ、大家のカーズトは何だ？ネパールで何をしているのか、給料はいくらだ？何歳だ、結婚をしているのか、えっ？26歳で独身？、じゃあ、うちの息子と結婚しろ。」と、全ての話がそこからはじまります。出会う人、出会う人に聞かれ一日に5回以上同じことの繰り返しなんて事も。バスやタクシーに乗れば聞かれることは必須。2年間でかるく500回以上はこの質問に答えていたかと。ネパール語の勉強だ！と丁寧に話していた私も4~5ヶ月もすると、なぜみんな同じ質問しかしないのか、他に聞くことはないのか？プライベートもぐさぐさと、失礼なことも聞くな〜、と少しいらいら。しかし、これも長い長い「ナマステ」と思えば苦にはならず、また、これだけ私のプライベートを聞くのだから、私も聞いていいはず、と「聞かれたら聞き返せ戦法」を用いたところ、これが、さらにネパール人の生活模様が見えて、面白いのです。隣の家族が10人兄弟であることが分かったり(避妊手術を受けていたにも関わらず!)、ええい！プライベートも聞いちゃえと、お給料も聞いてみると、(ネパールは出稼ぎ者が多いのですが)傭兵隊でアメリカ軍に所属し、アフガニスタンで働いている人は月給2500ドル、それに対してサウジアラビアで建設現場で働いている人は月200ドルほどの仕送り。(ちなみに、ネパールの公務員は月給12000円ほどです)ネパールのバスで乗り合わせたチベット民族の人に、「どこから来たの？」と聞くと、1950年代の中国のチベット侵攻のため、2ヶ月かかって、夜中に歩いてネパールに逃げてきた、と答えが返ってきたことも。そんなちょっとした会話がきっかけで、ネパールの避妊手術のレベルや、出稼ぎによって下位カーズの収入向上が及ぼすカーズト制度への影響、チベット難民にとっての中国についてなど、日々いろいろなことについて、推測し、想像できます。

休日に、今日は暇だな〜と思えば、近所をうろつきます。よってけ、よってけと声がかかり、早速をお茶をのみながらおしゃべりです。50mほど歩くだけで、4カ所でお茶を飲ませてくれたり。

ときには、急に踊り出したり。彼女は、近所の雑貨屋さん。



あまりのおしゃべり好きで、村で、私のあることないことが噂されることには閉口しましたが、おしゃべりは、人とのつながりの温かみを感じさせてくれる、素敵なネパールの文化です。毎日、多くの人との新しい出会いがあっただけに、日本のように、一歩家の外を出ると、知り合い以外とは話すことがないのは、なんとも寂しいものです。

「おしゃべり」のお陰で、ネパール語はまあまあ上達しました。市場でネパール語で話していると「おじょうちゃん、山から来たのかい？」と、公用語であるネパール語に不慣れな人が多い山岳民族に間違われたことも何度か。完璧ではありませんが、一応山岳民族のネパール人レベルにまで語学はあがったようです。

### **ご飯**も、ネパール人の生活には欠かせません！

ネパールのオフィスは朝 10 時から開始。。。のはずですが、10 時に来る人はほとんどいません。10 時半ぐらいにちらほら。理由を聞くと、「ご飯が炊けていなかったから」。この発言、オフィスでも学校でもだいたいまかり通ってしまうので驚きです。ネパールは一日 2 食。9-10 時に朝ご飯、18-19 時に夜ご飯が主です。そのため、朝ご飯といえど、日本の晩ご飯並に、白ご飯にスープ、野菜炒め、漬け物、生野菜、(時々)絞めたてのお肉がしっかりと並びます。



(↓街では、お昼におやつとして、こんな油っこいものをがつつり食べる人もいますが。)



ネパール人に言わせると、「ご飯をちゃんと食べないで仕事はできない」「ご飯をきちんと食べないのは不健康だ」ということ。一人暮らしのわたしが、「朝ご飯に何を食べた？」ときかれ、当時はまっていた「ベトナムフォー」「薄焼きパン」と答えたら、不審そうな顔。毎日写真のよう食事しか食べない村人にとって、「フォー」も「パン」も未知のものであり、

もはや「ご飯」ではない。。「今日は朝ご飯食べていない」と言おうものなら、「お前は人間か？」と言わんばかりの顔です。「今から食べてこい」と追いやられ、食べてくるまで仕事の話も聞いてくれない人も。ご飯より、「仕事」や「責任」「時間」の優先順位が高い日本では考えられないことですが、ネパールにずっといると「食べる」ことは大事だな、と思えてきます。家族全員で料理にとりかかり、食べるときには、今日の出来事をみんなで話をする貴重な場。また、健康でいるためにも「食べる」ことは生きる基本だな、とも思えます。確かに、ご飯を優先して仕事に遅れてもいい、という考え方はおかしいですが、反対に、日本のように、仕事を優先してご飯を食べず、体を壊す、家族との団らんの場をもたない、ということもおかしなもの。みなさんもしっかり、食べる時間を大切にしてくださいね！

ネパール人にとって、

## 家族



や

## 踊り



も欠かせません。が、今回は「おしゃべり」と「ご飯」を取り上げさせていただきました！

ところで、日本人にとって欠かせないものは何だと思われませんか？

来週は最終回！ トピックはまだ決めていません。何か、これを知りたい！なんてことがあれば渋谷([tomoko.s1218@gmail.com](mailto:tomoko.s1218@gmail.com))までご連絡ください。

では、フェリベトーン！

## <ご参照>

全4回で、ネパールの面白いこと全てをお伝えすることは難しいですので、ネパールについての記事をご紹介します。

- 先日、友人のネパールでの仕事が岐阜新聞に掲載されました。専門は学校保健です。ネパールの学校のことについて書いています。面白い記事でしたので、ぜひご一読ください！

こちらをクリック→ [http://www.gifu-np.co.jp/tokusyu/2011/furusato\\_letter/fl20130712.shtml](http://www.gifu-np.co.jp/tokusyu/2011/furusato_letter/fl20130712.shtml)

- また、ネパールに関する日本人ジャーナリスト第一人者 小倉清子さんの記事はこちらから！ 小倉さんは、ネパールの内戦から民主化をずっと追いかけてきた方。内戦のきっかけとなった共産党毛沢東派に関する記事は、大変興味深い内容です。

こちらをクリック→<http://www.asiapress.org/apn/archives/2000/1047/>